

北川 暁子 Akiko Kitagawa | Pf. (特別出演)

丸山淑子女史、L.コハンスキー教授に師事。
1964年 イノホールで第1回リサイタル。
1967年 武蔵野音楽大学卒業。オーストリア国立ウィーン音楽アカデミー入学。R.ハウザー教授に師事。

1969年 ブゾーニ国際コンクール3位。ウィーン音楽アカデミーを全教授一致の最優秀で卒業。ペーゼンドルファー・コンクール優勝。

1970年 第19回ミュンヘン国際コンクール2位(1位なし)。帰国。以後毎年リサイタル。

1980年 ハンブルクでリサイタル。

1984年 演奏活動20周年記念として、ベートーヴェン ピアノソナタ全32曲の10日間(7夜)連続演奏会。

1989年 千本博愛、北川靖子と「セルヴェトリオ」を結成、第1回演奏会。

1992年 北川靖子と第1回「ソナタの夕べ」開催。

1994年 演奏活動30周年記念としてのブラームスの夕べ(5夜)を開催。

1995年 平野義子と「ピアノデュオの夕べ」第1回演奏会。

1999年 「セルヴェトリオ」第10回演奏会。

2001年9月 ワルシャワのショパンの生家とワジェンキ公園でショパンの作品を演奏。

2004年 演奏活動40周年記念としてベートーヴェン連続演奏会(ピアノソナタ全32曲、ピアノ協奏曲 第4番 第5番)を1年間(10夜)にわたって開催。

2012年3月 東京藝術大学音楽学部教授退任に際し、2011年12月～2012年6月、7夜にわたりベートーヴェン・ピアノソナタ全曲を連続演奏。現在、東京藝術大学名誉教授。

多田 充 Mitsuru Tada | Pf.

1969年京都生まれ。東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了。現在、千葉大学准教授ならびに同大学ピアノサークル「ショパンの会」顧問教員を務める。5才よりピアノを始める。第6回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。仙台市主催、第4回ユース・クラシックコンサートにおいて最優秀演奏者に選ばれ仙台市長賞受賞。第9回金沢市ピアノコンクールにおいて金賞受賞。国際アマチュアピアノコンクール2008において第1位入賞。2009年、朝日カルチャーセンター公開講座「クラシック音楽を生涯の友に」第4期「ピアノとピアノ音楽を楽しむ」において講師を務める。2010年、日唄文化協会ガラコンサート12thに出演。これまでに越野正信、酒井依里、秋山徹也の各氏に師事。

浅村 佳代 Kayo Asamura | Vn.

桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部卒業。卒業後ウィーンにて学ぶ。2009年旭川・ウィーン国際ヴァイオリンセミナー優秀賞受賞。2010年奨学生としてモーツァルト国際サマーアカデミー参加。同年ウィーンにて行われたディビラーコンクール奨励賞受賞。旧市庁舎バロックホールにてコンサート出演。2007～2012年ラフォルジュルネ音楽祭ヴァイオリンソロエリアコンサート、またウィーンにてハウスコ

ンサート、ウィーン国立音楽大学にてコンサート出演。ラベルアカデミーにてレジスパスキエ氏に指導を受ける。辰巳明子、M.フリッセンシュラガーの各氏に師事。

鳥羽 泰子 Yasuko Toba | Pf.

5歳よりピアノを始める。父の転勤のため中学、高校をオーストラリア、パースに在住。1985年オーストラリア放送協会主催音楽コンクールピアノ部門第一位。1986年ジュリアード音楽院に入学。1990年同学院卒業。1991年イタリアのセニガリア国際ピアノコンクール入賞、またモーツァルト賞を受賞。1993年ジュリアード音楽院ピアノ科修士課程修了。1993年オーストリアのザルツブルグ夏期講習にて最優秀ピアニスト賞受賞。1994年アメリカ、テキサス州ショパン国際ピアノコンクール第一位。1996年ベルギーのEmmanuel Durllet国際ピアノコンクール第一位。1999年からオーストリアと日本を中心に演奏活動を行う。2005年には小林研一郎指揮、日本フィルハーモニー交響楽団とベートーヴェンのトリプル協奏曲をサントリーホールで演奏。1995年から2010年までオーストリア(ウィーン)に在住。これまでに徳間ジャパン、アートユニオン、キング・インターナショナルからCDをリリース。特にクレメンティのソナチネ集、モーツァルトのピアノ小品集はレコード芸術にて推薦され、またモーツァルトのピアノソナタ全集は高く評価されている。佐野川延子、オクサナ・ヤブロンスカヤ、故種田直之、セルゲイ・ドレンスキー各氏に師事。

菅 司 Tsukasa Kan | Vn.

愛知県岡崎市生まれ。5歳よりヴァイオリンを始める。愛知県立岡崎高校卒業。2002年から元マンハイム国立歌劇場コンサートマスターの朝枝信彦に師事し、立教大学経済学部にて在学中の2004年3月に渡欧。2005年3月からウィーン・フィル第1コンサートマスターのライナー・キューヒルに師事し、2006年10月よりウィーン国立音楽大学に在籍。2011年10月に同大学修士課程を修了。現在は修士課程にてさらに研鑽を積む。これまでにヴァイオリンを浜野孝史、森康子らの各氏に、室内楽をターリッピ・カルテット、アルテンベルク・トリオ、M.フェルナンデスらの各氏に師事。またザハール・ブロン、ピエール・アモイヤル各氏のマスタークラスに参加し、各修了演奏会に出演。現在は室内楽やオーケストラ奏者として、特に近現代音楽レパートリーに重点を置き、多くのヨーロッパ現代作曲家の作品を演奏・初演し、オーストリア内外で演奏活動を行う。2011年4月にザグレブの現代音楽祭Music Biennale Zagreb(クロアチア)、またグラーツのISCMワールド・ニュー・ミュージック・フェスティバル(オーストリア)に出演。2012年1月にウィーンのシェーンベルク・センターにて催された現代音楽祭でリゲティの弦楽四重奏曲第2番を演奏。同年6月にはドイツを代表する現代作曲家ヘルムート・ラッヘンマンと共演し好評を博す。

柴田 典子 Noriko Shibata | Pf.

静岡県生まれ。4歳からヤマハ音楽教室でピアノを始める。大場多恵子の下、浜松学芸高等

学校音楽科を卒業。2004年、P.T.C.ピアノコンクール第一位、並びにP.T.C.賞受賞。2005年、第8回浜松国際ピアノアカデミーで中村絃子氏に学ぶ。他にもミシェル・ペロフ、ピョートル・パレチニ、ピエロ・ラッターリノ、アリエ・ヴァルディエら各氏のレッスンを受講。

2006年よりウィーン・コンセルヴァトリウム私立大学(旧ウィーン市立音楽院)でピアノをオットー・プロブスト、室内楽をウィーン・アルテンベルク・トリオのピアニスト、クラウス・クリスチャン・シュスターに師事。2008年、エリカ・チャーリー奨励賞受賞。2010年1月に同音楽大学の学士取得、現在は同大学修士課程にてさらに研鑽を積む。2010年6月、ウィーン楽友協会グレスナー・ザールにて、ピアニスト、マリーノ・フォルメンティの指揮の下、現代音楽プロジェクト「カルテ・ブランシェ “Wiener Brut”」に参加。2011年3月、ウィーン楽友協会同ホールのフランツ・リスト生誕200周年記念コンサートに出演。2011年9月にはウィーン・ペーゼンドルファー・ホールにてソロリサイタルを、また11月にクレムス・ヴァッハウ・ロータリークラブの奨学生・招待リストとしてクレムスにてソロリサイタルを行った。

現在はピアノソロに限らず、室内楽奏者や歌曲伴奏者としても幅広く活動しており、2011年春よりミハエル・バプスト(元ウィーン国立歌劇場ソリスト)門下、並びにウィーン・フォルクス・オーパーのソリスト、ヴィンセント・シアマッハーの専属伴奏者を務める。

浦山 純子 Junko Urayama | Pf.

4歳よりピアノを始め、桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業後、ポーランド国立ワルシャワショパン音楽院に留学。1995年ラヴィーウ国際ピアノコンクール優勝、及び最優秀ショパン賞(ポーランド)、1998年ボリーノ国際ピアノコンクール最高位(イタリア)をはじめとする数々の賞を受賞。1996年よりロンドンを本拠地とし、名門ウイグモアホールにてデビュー。ヨーロッパ各国でソロリサイタル、コンチェルトから室内楽に至るまで幅広く活動し、2002年には、ウラディミール・アシュケナージ指揮フィルハーモニア管弦楽団とグリーグのピアノ協奏曲を共演、同年再び招かれチチェスター音楽祭にて演奏。2005年より東京に拠点を移し、雅楽師・東儀秀樹氏とのジョイントコンサート、ホロヴィッツのピアノによるスタインウェイ・ガラコンサート、お話音楽館など、多彩な企画を含めた演奏活動を展開中。また、スタインウェイ・ジャパン(株)の“Young Virtuoso Series”のアーティストとしても全国各地でコンサートを行うほか、国内外で教育・福祉関係のためのチャリティー活動にも力を入れている。2009年よりスタートさせた「心の旅への誘い」シリーズでは、「奥の細道」から着想された『芭蕉の奥の細道による気紛れなバラフレーズ』を取り上げる独創的な企画で注目を集め、2012年6月にソニー・ミュージックダイレクトより4枚目のCD〈Voyage〉がリリースされた。浅野繁、奥村洋子、安川加壽子、アンジェイ・ステファンスキ、スラミタ・アロノフスキ各氏に師事。スタインウェイ・アーティスト。

www.junkourayama.com